

令和6年度自己点検・評価報告会 質疑応答(要旨)

(R7.2.28 開催)

1:滋賀大学の現状分析と今後の課題

質問 1:報告書の形式について

質問者:学生(経済学部)

内容:

- 大学の報告書の形式が分かりにくい。
- 特に、取り組みの達成度が定性的な表現に留まり、具体的な数値指標が示されていない。
- データサイエンスを重視する大学として、達成度の数値化を行い、視覚的に分かりやすい形に改善すべき。

回答:

- 大学の活動を分かりやすく伝えることは重要であり、報告書の改善を検討する。
- 今後は、達成度の数値化を進め、グラフや表などを活用した分かりやすい報告書となる様に務める。

質問 2:ダイバーシティに関する取り組み

質問者:学生(経済学部)

内容:

- ダイバーシティの推進が十分ではなく、他大学と比較して取り組みが弱く感じる。
- 他大学と同様に、ダイバーシティ宣言の発表や、ダイバーシティ推進本部の設置が必要ではないか。
- 女性研究者や留学生、障害のある学生への支援強化も求められる。

回答:

- ダイバーシティの推進は大学にとっても重要な課題である。
- 現在、ダイバーシティ宣言は行っていないが、今後検討し、推進本部の設置も視野に入れる。
- 女性研究者の採用促進、留学生の受け入れ支援、障害学生支援なども強化したい。

質問 3:障がいのある学生の支援体制

質問者:学生(経済学部)

内容:

- 障がいのある学生への支援が不十分と感じる。常勤の専門支援スタッフを配置し、障がいのある学生への支援体制を強化するべき。
- 具体的には、学習環境の整備だけでなく、他大学の様に就職支援の強化も必要と考えられる。

回答:

- 現行の支援体制で最大限のサポートを提供しているが、改善の必要性は認識している。
- 限られた資源ではあるが、今後常勤の支援スタッフの配置を検討し、障害のある学生の就職支援にも取り組んでいきたい。

質問 4:地域連携とデータサイエンスの活用

質問者:経営協議会委員

内容:

- 国立大学の存在価値として最近言われているのは地方創生である。地域の知を結集しより良い地域を作り上げていく機能が求められており、医療や交通など、データサイエンスを活用して、地域の課題解決を促進すべき。
- 地方創生の事業を実施する際、地域自治体との連携が非常に重要であり、特に滋賀県との連携に関してどのような取り組みをしているのか伺いたい。

回答:

- 滋賀県と連携し、地域のデータを活用した課題解決プロジェクトを進行中である。
- ひとつは共創の場、もうひとつは文部科学省の人材育成事業である。行政・企業・他大学との協働をさらに強化したい。
- 滋賀県とは、交通、観光分野でも既に連携がすすんでいる。データサイエンス・AI・イノベーション研究推進センターにある EBPM 部門を強化しており、連携強化の体制は整っている。

質問 5:メディア露出と広報活動

質問者:経営協議会委員

内容:

- 大学の認知度向上のため、学長や教員がメディアに積極的に登場すべき。
- 広報戦略を見直し、積極的に情報発信を行うべき。

回答:

- 大学の活動を広く伝えるため、メディア露出の機会を増していきたい。

質問 6:ホームページの情報発信

質問者:経営協議会委員

内容:

- 大学のホームページ等のページビューが令和5年度と比べて全ての方法媒体で下がっているが、何か理由があるのか。

回答:

- 特定の原因はないと考えている。
- 今後もホームページのコンテンツを見直し、ターゲット別に、タイミングや範囲を絞って的確に情報提供していく。

質問 7:大学院教育の充実

質問者:経営協議会委員

内容:

- 高等教育のこれからの在り方の議論が進んでおり、規模の適正化が言われているが、入学定員の中長期的な展望があるか。

回答:

- 大学院教育の充実、質向上を戦略的に進めることが重要と考えている。

2:学部・研究科の現状分析と今後の課題

意見 1:DS 学部の取組

質問者:学生(DS 学部)

内容:

- 新しい入試制度や定員増の取組に興味がある。データサイエンスの知識は今後社会で必要となるものであり、良い取組である。

回答:

- 国レベルでデータサイエンスの重要性が認識されている。データサイエンスは社会で直接役に立つ学びであり引き続き注力する。

質問 1:学生の研究発表と教員のサポート

質問者:学生(DS 研究科)

内容:

- 院生の学会や論文発表にはどれくらいの学生が寄与しているか。
- 院生の研究費助成制度が充実しているか。

回答:

- 2023 年度実績で 55 件、32 名の院生が関わっている。
- 修士課程の入試成績優秀者には返済不要の奨学金を支給、博士課程の学生には学振不採択時の奨学金支援を用意。成果を出し、自分で獲得する努力が必要。

質問 2:論文の取得とコスト

質問者:学生(DS 研究科)

内容:

- 電子ジャーナルでより多くの論文が読めるようにすべき。

回答:

- 個別取得が可能であり、図書館に要望を出せば対応できる。
- 電子ジャーナルでサイトライセンス契約はコストが高いため、予算と勘案し慎重に検討が必要。

質問 3:直通バスの増便と通学環境の改善

質問者:学生(教育学部)

内容:

- バスの運行本数が少なく、通学環境が不便である。観光客や地域住人が使うバスに学生が箱詰め状態になっており、問題となっている。
- 直通バスの増便や運行時間の改善を考えてもらいたい。

回答:

- 大学としてバスの運行状況に関して課題意識は持っている。
- 必要となる経費も勘案しながら出来ることからやっていきたい。

質問 4:音楽支援センターの活動とアウトリーチ

質問者:学部関係者(後援会)

内容:

- 教育学部で行っているアウトリーチ事業についてもう少し伺いたい。

回答:

- アウトリーチとしては、学外へ出かけて行き、コンサートや楽器演奏の体験イベントを実施し、大人も子どもと一緒に音を楽しむ活動をしており、色々な場所で実施することが出来た。
- 今後、さらなるアウトリーチ活動を計画したい。

質問 5:AI を活用した音楽活動の発表

質問者:学部関係者(後援会)

内容:

- 国立音大と連携で実施している AI を活用した音楽活動の成果を劇場の様な場で発表する様な計画はあるか。

回答:

- 著作権の問題があり、すべてを公開するのは難しいが、一部をリンク公開している。作品のクオリティが上がってくれば検討したい。

質問6:障がい学生比率

質問者:学部関係者(同窓会)

内容:

- 滋賀大学の障がい学生の学部別の内訳やここ数年の推移、他大学と比較してどうなのか。

回答:

- 他大学と比較して多い数字ではない。平均的な数字に近い。
- 学部別としてはデータサイエンスがやや高めであるが、大きく変わるものではない。身体だけでなく、精神障害・発達障害の学生が増えている。

質問7:教員養成と教員離れ

質問者:学部関係者(同窓会)

内容:

- 教員不足が全国的に言われているが、滋賀県の教員養成を担う大学として、教員志望者をどう増やすか、大学としての戦略をどう考えているか。
- 附属学校の改組について、将来展望としてどの様な着地点を考えているのか。

回答:

- 学生に対しては地域教員マインドを掲げ、滋賀らしい教育の特徴・意義を教えている。
- 教職大学院の現職教員の学生との院生同士の学びの場、横のつながり、仲間づくりを行っている。
- 高校生に対しては高大連携事業等で教職の意義等を十分理解した上で入学することにより、入口から出口まで教員志望度の高いまま教員になれるよう取り組みを行う。
- 他の国立大学では附属学校の改組は十年くらい前から既に進んでいる。
- 子どもの数が減少していく中で社会全体での公教育や教員養成をどうしていくのか議論が見えないと安定にはならない。国としての議論を見ながら、附属学校関係者と協議し進めていく。

提言:情報発信と事業の優先順位付け

質問者:学部関係者(外部アドバイザー)

内容:

- 少子化が進むなど厳しい情勢の中で、大学関係者の奮闘に敬意を表したい。

- 自助努力をしていく必要がある中で、広報や情報発信が重要。厳しい情勢の中では優先順位を絞っていく必要がある。

質問8:大学のブランドと差別化

質問者:学部関係者(企業)

内容:

- 大学は地域のブランドと地域の活性化を担う存在であり、地域が生き残るためにも全国・世界規模のブランド力を発揮頂きたい。
- 他の上位大学やマンモス私学でもデータサイエンス学部が出来ているが、競争が激化する中でどの様に乗り越えていくのか。

回答:

- 滋賀大学のデータサイエンス学部は特色があり、地域連携・企業連携も順調に波に乗っており、今後も着実に継続してやっていく。

提言2:

質問者:学部関係者(企業)

内容:

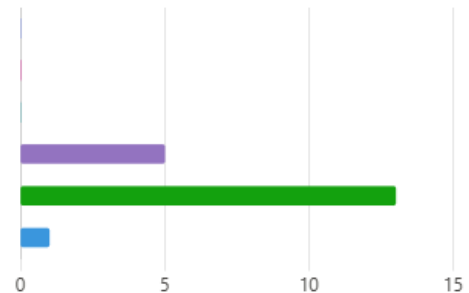
- 中期目標に対する取組・結果に素晴らしい成果が出ている。学内外、学生も含めて意見交換する場があることは素晴らしいこと。
- 建築業界ではデータサイエンスを活用する分野が多々あり、引き続き連携し高みを目指していきたい。
- 留学生の採用にも力をいれており、お知恵をお借り出来ればありがたい。

令和6年度滋賀大学自己点検・評価報告会 アンケート結果

1. 回答者所属

1. 所属をご選択ください。

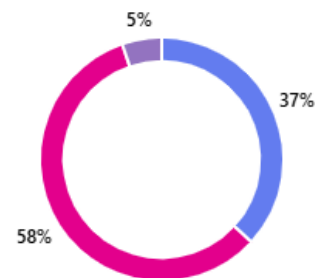
● 経営協議会委員	0
● 学部同窓会・後援会	0
● 連携企業・関係機関	0
● 学生	5
● 教職員	13
● その他	1



2. 滋賀大学の大学全般の取組（第一部の報告内容）への評価

2. 滋賀大学の大学全般の取組（第一部の報告内容）への評価について

● 評価できる	7
● やや評価できる	11
● どちらでもない	0
● あまり評価できない	1
● 評価できない	0



3. 2 に関する主な評価

◆特に評価できる点

- ・学生含めて、多様な参加者であった点。（学部有識者）
- ・事前に資料配布があり、確認できた点。（学部有識者）

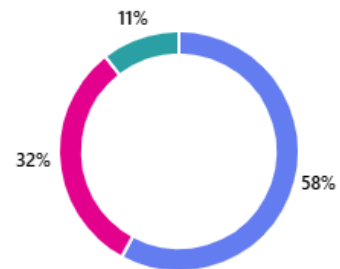
◆課題と考えられる点

- ・地域に求められる教員養成と言いながら、実際には付属学園の改組、指導教員の削減等、行動が伴っていない点。何に使うのか、必要かも分からないようなイニシティブ棟に時間とコストをかける前に、足りていない部分を補うべきだと思う。（学生）
- ・入学試験の出題ミスをなくす事が課題と感じました。（学生）

4.データサイエンス・AI イノベーションセンターの取組（第二部の報告内容）に対する評価

4. データサイエンス・AI・イノベーション研究推進センターの取組（第二部の報告内容）に対する評価について

● 評価できる	11
● やや評価できる	6
● どちらでもない	2
● あまり評価できない	0
● 評価できない	0



5. 4 に関する主な評価

◆特に評価できる点

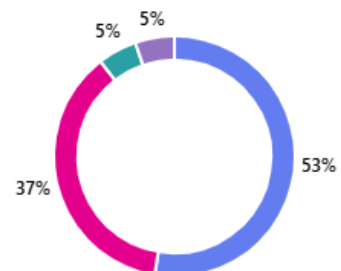
- ・多様な取組が進んでいて良いと思います。（教職員）

◆課題と考えられる点

6.教育学部の取組（第二部の報告内容）に対する評価

6. 教育学部の取組（第二部の報告内容）に対する評価について

● 評価できる	10
● やや評価できる	7
● どちらでもない	1
● あまり評価できない	1
● 評価できない	0



7. 6 に関する主な評価

◆特に評価できる点

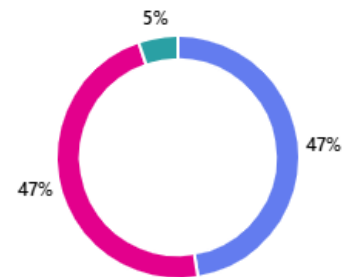
- ・教育学部の課題、成果が理解できました。（学部有識者）

◆課題と考えられる点

8.経済学部取組（第二部の報告内容）に対する評価

8. 経済学部取組（第二部の報告内容）に対する評価について

● 評価できる	9
● やや評価できる	9
● どちらでもない	1
● あまり評価できない	0
● 評価できない	0



9. 8 に関する主な評価

◆特に評価できる点

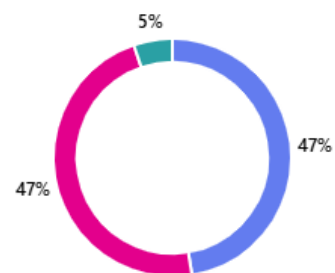
- ・改革後が理解出来ました。（学部有識者）

◆課題と考えられる点

10.データサイエンス学部取組（第二部の報告内容）に対する評価

10. データサイエンス学部取組（第二部の報告内容）に対する評価について

● 評価できる	9
● やや評価できる	9
● どちらでもない	1
● あまり評価できない	0
● 評価できない	0



11. 10 に関する主な評価

◆特に評価できる点

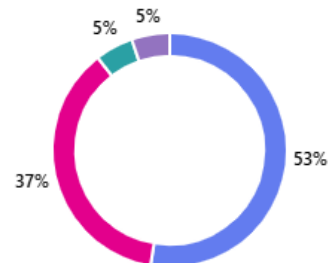
- ・拡大、人気、対策、企業連携など理解出来ました。（学部有識者）

◆課題と考えられる点

12.大学の内部質保証の取組（自己点検・評価報告会の実施や、内部質保証に係る点検・評価を通じた本学の教育研究・大学運営の改善・向上を図る取組）への評価

12. 大学の内部質保証の取組（本日の自己点検評価・報告会や、内部質保証に係る点検・評価（資料名「内部質保証に係る点検状況について」を通じた本学の教育研究・大学運営の改善・向上を図る取組）への評価について

● 評価できる	10
● やや評価できる	7
● どちらでもない	1
● あまり評価できない	1
● 評価できない	0



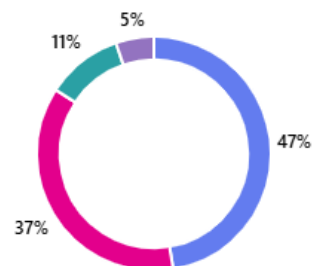
13. 12 に関する主な評価

- ・学生や企業様など、様々なステイクホルダーの皆様が開かれた報告会でよかった。（教職員）
- ・彦根市や大津市、滋賀県といった地方自治体の関係者にもご参加頂ければよりよいと思いました。（教職員）

14. 自己点検・評価報告会の資料

14. 自己点検・評価報告会の資料について

● 大変良い	9
● 概ね良い	7
● どちらでもない	2
● あまり良くない	1
● 良くない	0



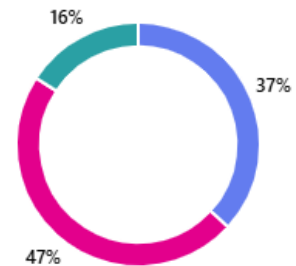
15. 14 に関する主な評価

- ・課題に★マークがあり、見つけやすかったです。（学生）

16. 自己点検・評価報告会の時間配分

16. 自己点検・評価報告会の時間配分について

● 大変良い	7
● 概ね良い	9
● どちらでもない	3
● あまり良くない	0
● 良くない	0



17. 16 に関する主な評価

・ちょうどいいと感じました。（教職員）

18. その他感想・意見

- ・学生は報告内容をよく理解ししっかりした質問をしているなと感じました。多くの学生が参加しているようなので、もう少し学生の意見を聞く時間があってもいいなと思いました。（教職員）
- ・内容を聞きながらメモできるようにしていただきたいです。（学生）